

大ケヤキ

学校だより「第30号」
平成28年11月25日発行
高田中学校長 野内 昭

学校保健会年間テーマ

『子どもとメディア』(4)

ネット依存とその対策

『大ケヤキ』第29号で、ネット依存にさせないために考えてみたいこととして、次の①と②の視点についてご紹介しました。今回は、残りの③と④についてご紹介し、ご一緒に考えてみたいと思います。

- ① 心理教育
- ② ネットについてみんなに考えさせる
- ③ ネット使用の前にはルールを設ける
- ④ ネット使用の記録をつけてみる

③ ネット使用の前にはルールを設ける

このことについて、次のように記述されています。
ネットを使用する前にネット使用に関するルールを作成し、文書化しておくことが大切です。ルールを作成する過程で、なぜそのようなルールが必要なのか、本人を含めて家族でネットに使用について話をすることが最も大切です。

また、ルールは一度作ったなら終わりではなく、発達段階に合わせて見直し、自分でネット使用をコントロールできる力を身に付けていくことが必要です。

④ ネット使用の記録をつけてみる

ネットの過剰使用が心配になった場合には、毎日のネットの使用状況を簡単に記録させ、それを一緒に見直してみることも、本人が客観的に自分の使用行動を把握することができ、自然に使用を減らすことにもつながることがあるそうです。
このようなことをしない状態が一番いいのですが、もしも心配であれば、実践してみてもいいでしょうか。

3 ネット依存に陥っている子どもたちにもどのように対応すればよいのか

『子どもとメディア』の最後です。もしも、陥ってしまった場合の対応の仕方です。

まず、そのような子どもからネットを取り上げるかどうかについては、慎重な判断が必要だと述べています。それは、自分のネット使用について問題に思っていない本人から、強制的に取り上げても、結局は親が暴力を振るわれたり脅かされたりして折

れざるを得なくなり、うまくいかないケースが多いからだということです。このような時は、第三者(先生やカウンセラーなど)が介入し、まずは子どもがネット内の世界を否定せずに話を聞いてゆくと、子どもがネットの世界に何を求めているか、心理的な背景が見えてきて、そこに理解を示すことで解決の糸口が見えてくる人が多いということです。

このようにして、ネットの使用時間を減らすことに働きかけるよりも、ネット以外に取り組める何かを子どもたちが見付けていけるような働きかけができると、依存状態から立ち直っていくことが多いと結んでいます。(おわり)

昨日(25日)

町教研授業公開!!

本町には「教育研究会」が組織され、毎年「授業研究会」を開催しています。町内の幼・保、小、中学校が輪番制で、3年に1回程度授業などを公開します。

実は今年度本校が当番校で、昨日の午後、1年「社会」、2年「英語」、3年「数学」、そしてけやき学級「国語」の授業を公開しました。町内から60名を超える先生方に参加をしていただき、授業や生徒指導、学力向上に関する意見交換を行いました。いろいろな意見や、指導いただいたことを、今後に生かしていきたいと思えます。ありがとうございました。

いよいよ来週から

『師走』!!

今学期も残り一ヶ月切る!!

いよいよ来週の木曜日から、『師走』に入ります。平成28年も残り一ヶ月余りとなりました。2学期も、20日後には終業式を迎え、23日(金)からは実質的に「冬休み」を迎えることとなります。月日が経つのは本当に早いものです。

さて、期末テストも終わり、ひと安心(のんびり)している人がいるのではないかと思います。冬休みを迎えるまでのこの期間をいかに過ごすかが非常に重要となります。それは、この期間の目標をどのように設定し学校生活を送るかが、その後の冬休み、さらには3学期に影響を及ぼすからです。

特に3年生の皆さんにとっては、来週の月曜日(28日)に第5回の「実力テスト」がありますし、高校入試までいよいよ3ヶ月を迎えようとする大事な時期になってきます。

また、1、2年生の皆さんにとっても再来週の月曜日(5日)に「計算力オーピングテスト」、その1週間後に「計算力コンテスト」が行われます。皆さんはどのような目標を設定して取り組みますか。この1ヶ月間の頑張りに期待しています。